



ガリシア

galicia

XUNTA DE GALICIA



観光必須スポット | 7 - 20

ガリシアに関する10のキーワード | 21 - 68

ガリシア再発見 | 69 - 85

galicia

ガリシア

スペイン

大西洋に面し、かつて「地の果て」と呼ばれたガリシア。五感を刺激する世界へあなたをご招待しましょう。

今までの歴史の中で、この地は幾度も征服されそうになりましたが、その度にこの地に伝承されるいくつもの不思議な現象に守られてきました。そしてさまざまな民族がガリシア文化にとけ込んでいきました。

ペトログリフやドルメン、ローマ時代の建築物、何十も存在するカストロと呼ばれるケルト人の居留地など、ここに残された古代遺跡がその長い歴史を語っています。その後、少しずつ建てられた修道院や大聖堂の頂点が、サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂です。

その大聖堂では、サンティアゴまでの長い道のりを歩き、疲れて果てて到着した巡礼者の心身をボタフメイロと呼ばれる振り香炉が清めてくれます。巡礼の道中で目にするのは、霧に包まれ延々と続く森の緑をはじめ、牧場や農家の人々、漁師や採貝師など厳しい力仕事を象徴する働く人々の光景・・・

ガリシアを訪れる人たちに最高の食事を提供することができるのは、そういった農業や漁業に携わる人々のお陰です。荒波が打ち寄せる海岸はカメノテを育て、波の穏やかな沖合いではアサリやホタテ、ムール貝などが生息しています。





内陸の村では一番おいしいタコ料理が食べられる、と言われますが、ガリシアは他にもチーズ、グレロ、ジャガイモやパンなどで有名です。

ガリシアの郷土料理にはフランスニシキガイなどを入れたエンパナーダと呼ばれるパイ、コーン生地のエンパナーダ、煮込み料理、オムレツ、シーフード、イワシ、パドロン産のしし唐、焼き栗、かのに詰め物などがあります。最近ではこのような天然の食材も、シェフたちの手によって斬新で素晴らしい料理に仕上げられています。

オ・リベイロ、リベイラ・サクラ、リアス・バイシャス、バルデオラス、モンテレイなどの原産地呼称ワインに加えて、食後酒のコーヒーリキュール、ハーブのアグアルディエンテ（蒸留酒）、魔法の呪文を唱えながら作る魅惑のお酒ケイマダなどが、仲間たちと囲む食卓を楽しく演出してくれます。

ガリシアを訪れば、ワイン畑をうねるように囲む川、荒波から生まれた真っ白く細かい海岸の砂、潮の香りの中で生きる中世の姿を残した漁村、世界遺産、そして島々に生息する生き物たちを目にすることができます。

ガリシアでの生活は、あなたの人生に新しい風をもたらしてくれます。日常を離れ、この上ない自然を肌で感じ、そして魔法にかけられたような心と身体の平穏を見出してみてください。



見逃せない
観光スポット



Playa de As Catedrais
アス・カテドライス・ビーチ



見逃せない観光スポット

ガリシアを訪れることは唯一の体験。文化的遺産と同時に自然遺産も楽しめます。歴史地区が世界遺産に指定されているサンティアゴ・デ・コンポステーラへの道は「サンティアゴ巡礼の道」と呼ばれています。そしてその道は、古代に世界の果てだと思われていたフィステラ岬まで続きます。

イベリア半島の北西に位置し、1650キロの海岸を有するガリシア。その沿岸部で堂々たる姿を見せているのが、ローマ時代から現在まで稼働している唯一の灯台「ヘラクレスの塔」です。他に注目されるのは、アス・カテドライスに見られるような細かな砂をもつ自然海浜です。

南にはガリシア大西洋諸島国立公園があり、ここでしか見られない野生動物や植物が生息しています。その正面にはリアス・アルタスと同様、魚介類に富んだリアス・バイシャスが広がります。

ガリシアの内陸に行くと、シル川沿いに100年以上の歴史を持つブドウ畑や修道院点在するリベイラ・サクラ地方や、ローマ時代の城壁があるルゴの町があります。

ガリシア全土で見られる遙か遠い昔の遺跡には、ペトログリフやドルメン、そしてカストロと呼ばれるケルト人居留地、そして「クルセイロ」と呼ばれる十字架のモニュメント、「オレオ」と呼ばれる穀倉、「パンソ」と呼ばれる貴族の邸宅などの一般建築があります。

世界に知られるその素晴らしい食文化をもつガリシア。ここでは、常に上質の自然な食材を使って食事を準備します。バーやレストランで食べられる様々なガリシア料理を是非味わってみてください。



サンティアゴ巡礼の道

中世の時代からイベリア半島と大陸との行き来に使われていたヨーロッパ最古のこの巡礼の道は、ヨーロッパで最初に欧州文化街道と認められました。

緑に満ちた地域や海岸沿いや内陸の町を歩きながら、食を楽しみ、スピリチュアルな価値観を仲間たちと共有できる道です。サンティアゴ・デ・コンポステーラへは8つの道からたどり着くことができます。その中でも最も使われているのはフランスの道です。サンティアゴへ到着後にまだ体力が残っていれば、その昔に地の果てだと言われていたフィステラ岬へ足を延ばしてみるのも良いでしょう。

サンティアゴ大聖堂と旧市街

約1000年前、ヤコブの墓の上に大聖堂が建てられました。何世紀も前からヨーロッパ全土の巡礼者たちはこの道を歩いてサンティアゴを目指しました。そして巡礼を終えた者たちには「ラ・コンポステーラ」と呼ばれる巡礼証明書が発行されます。

大聖堂内部では、主祭壇にある聖ヤコブの像を抱擁し、聖ヤコブの棺を見て、ポタフメイロと呼ばれる振り香炉をご覧ください。また大聖堂の屋上に登ることもできます。

石畳の屋上からは、路地と広場の集った歴史地区の大半が目に入ります。世界中から訪れた観光客たちは、旧市街でワインや伝統的なタパスを楽しめます。



ルゴのローマ城壁

世界遺産に登録されており、世界でも唯一、その完全な姿を今でも残している市壁です。長さは2キロあり、10ある門から町へ入ることができます。

伝説によると、聖なる森を守るために建設されたといわれる市壁。現在ではその上を歩きながら、大聖堂を含む旧市街地の石畳の路地など町の大半を展望できます。この町では、ルゴに居住していたローマ人たちを称えるアルデ・ルクス祭りが必見です。その時代の公衆浴場も残っています。サン・フロイラン祭りでは、是非タコのガリシア風を食べてみてください。おいしいものをお腹いっぱい食べた後は、ガリシアで一番重要な川であるミーニョ川の川辺を散歩するのがいいでしょう。

ヘラクレスの塔

現在でも稼働しているローマ時代の灯台。古代から商業ルートの戦略地点なポイントにあったヨーロツバ北西部と地中海を航海しやすいように建てられました。この灯台には様々な伝説がありますが、巨人ヘリオをその支配から救うようにヘラクレスがこれを倒したというのが主説です。ヘリオの首を切り落とし、海の岸に埋めたその上に塔が建てられました。そしてその近くに最初に移り住んだ女性の名前をとって「クルニア(コルーニャ)」という町ができたそうです。

塔の上まで登ると、ア・コルーニャの町と大西洋を一望することができます。その波と潮風は常に海岸に強く打ち寄せています。

塔の周りにはモニュメントなどがある大きな広場があり、散策しながら緑を楽しむことができます。



フィステラ岬

古代ローマ人たちはこの地を、地球の一番西にある「地の果て」と呼んでいました。イベリア半島の占領を指揮した将官デシモ・フニオ・ブルートは、ここでの夕暮れを目にした後、太陽が沈むのはこの地であると確信します。

コスタ・ダ・モルテと呼ばれる沿岸部にあるこの場所は、大西洋の激しい波が打ち寄せる自然海岸に囲まれています。その高い崖からは広大な海と長旅を終える巡礼者たちの姿が目に入ります。

岬の近くにはロマネスク様式のサンタ・マリア・ダス・アリアス教会があり、その内部には髪と爪が伸びるという伝説の「金のひげのキリスト」像があります。

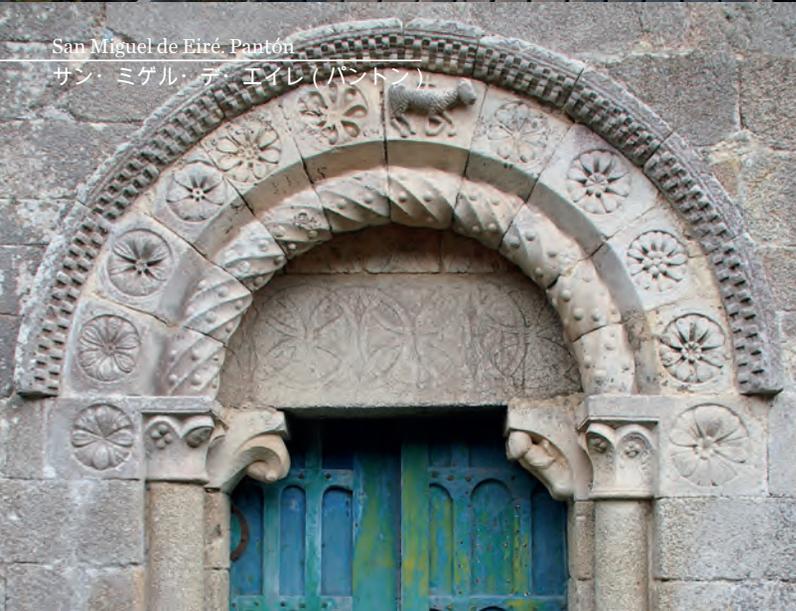
ガリシア大西洋諸島国立公園

ヨーロッパにある自然遺産の中でも貴重とされ、多様性がある独自の動植物が生息しています。この国立公園にはシエス島、オンス島、サルボラ島、コルテガダ島などが含まれていて、他では目にすることのできない景色を楽しませてくれます。公園へのアクセスは制限されているのでビゴ、カンガス、バイオナ、またはサンシエンショの町から船で行くのがお勧めです。

どの島へ行くとしても、そこにあるハイキングコースを歩いてみるのをお勧めします。そこでは灯台や自然海浜、野鳥や海の生き物たちを目にすることができます。これらの島はリアス・バイシャスにあるので、散策の途中で、最高級の魚や魚介類を獲りに出る漁船を目にすることもできます。



Mirador, Cañón del Sil
展望台 (シル溪谷)



San Miguel de Eiré, Pantón
サン・ミゲル・デ・エイレ(パントン)



リベイラ・サクラ地方とシル溪谷

シル川とミーニョ川は、長い間リベイラ・サクラ地方の風景を代表しています。山の斜面に広場一面のブドウ畑と点在する修道院は、この地方独特の景観です。

またここは、サンタ・クリスティーナ・デ・リバス・デ・シル、サン・ミゲル・デ・エイレ、サント・エステボ・デ・リバス・デ・ミーニョなどにみられるようにロマネスク様式の宗教建築が多く見られる場所です。

シル川を双胴船で遊覧しながら、またはマオ川に沿って岸から見る展望は最高です。ルゴ県とオウレンセ県で造られる原産地呼称ワインを味わえば、この見学はさらに充実したものになるでしょう。

アス・カテドライス・ビーチ

ルゴ県のマリーニャ地方に打ちつける荒いカンタブリア海の波。それが何世紀も続き、この自然のモニュメントが形成されました。引き潮のときにその姿が現れ、高さ30メートルの岩のアーチの下をくぐることができます。「アウガス・サンタス」というのが本来の名前ですが、この岩のアーチのためにここは「アス・カテドライス(大聖堂)」と呼ばれます。自然保護の目的でそのアクセスが制限されていますので、見学時にはその許可と時間をチェックしてください。

インディアノ洋式の邸宅が残る村リバデオや、旧市街地にある中世の教会が人気の村ビベイロなど、近隣の村では人魚と漁師の伝説が残っています。またリン口などの港では、シーフードの入ったおいしい米料理が楽しめます。





5



7



6

ガストロノミー

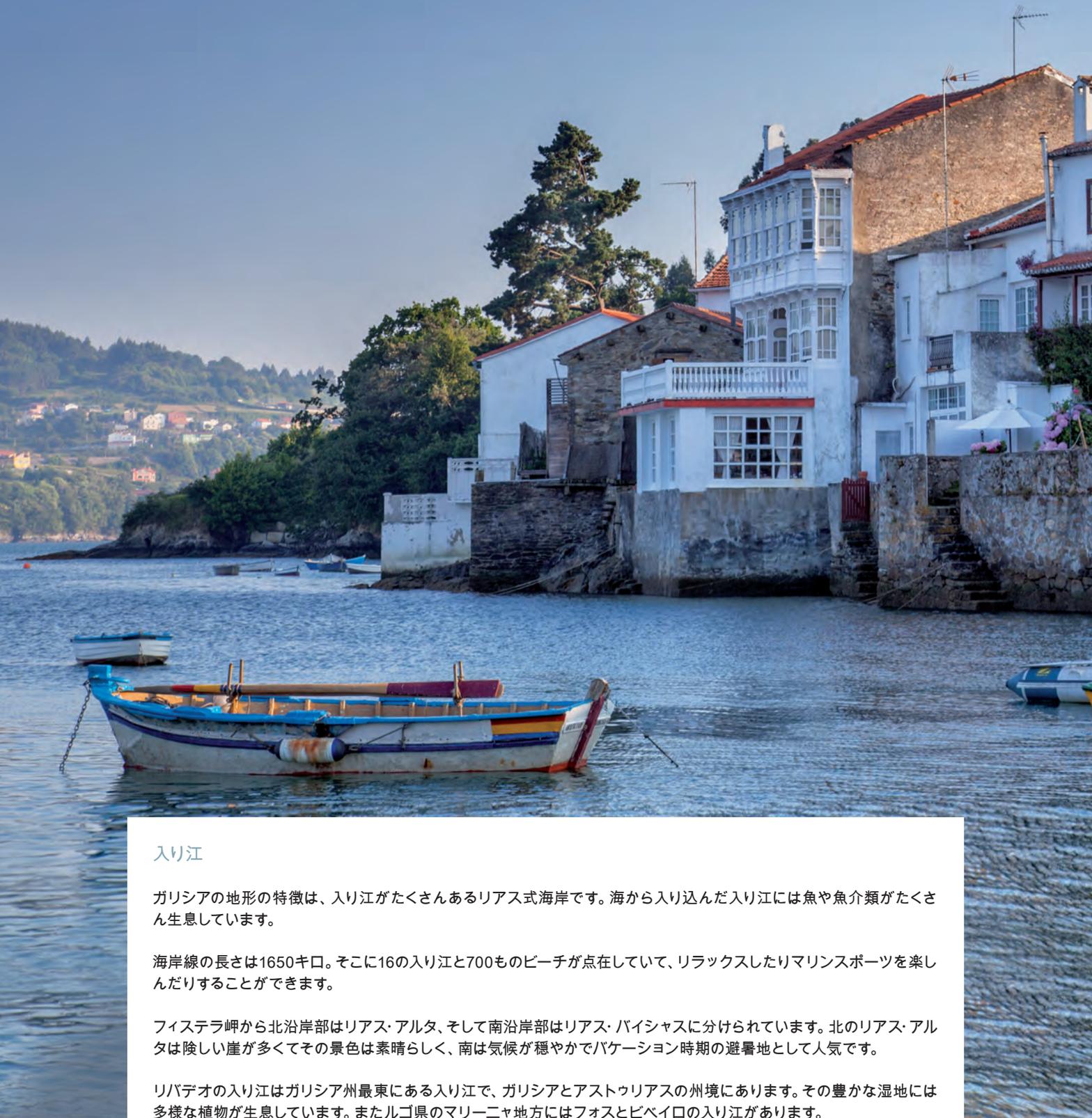
エンパナーダ、グレロ、チーズ、魚、牛肉、タコのガリシア風、ランブレア、パン、そしてガリシアワインは、どの町や村でも楽しむことができます。

その質の良さと産地証明により、ガリシアの食材は世界的にも注目されています。ジューシーで柔らかいガリシア牛、地元で「辛いのもあれば辛くないのものもある」と言われるパドロン産のしし唐、そしてテティーヤ、アルスア・ウツジョア、セブレイロ、サン・シモン・ダ・コスタなどのチーズもガリシアでは有名です。ひとつ選ぶのは難しいので全部を食べてみてください。ガリシアの原産地呼称ワインにはリアス・バイシャス、オ・リベイロ、リベイラ・サクラ、バルデオラス、モンレイの5つがあります。

原材料の良さを求めるトップシェフたちにはガリシアの食材が人気です。スペイン国内の有名レストランからは魚、シーフード、ガリシア牛などの注文が絶えません。最高の色と味をしたガリシアのムール貝、足長工ビ、ホタテは、世界的に有名なレストランに卸しています。

オ・セレイロ港から出た船が獲るメルルーサや、オ・ロンクド岸で命がけで獲られるカメノテも同様です。

ガリシア各地で開催されるお祭りでは様々な郷土料理を味わうことができますので、是非足を運んでみてください。お祭りでは手ごろな価格で料理が味わえて音楽も楽しめます。



入り江

ガリシアの地形の特徴は、入り江がたくさんあるリアス式海岸です。海から入り込んだ入り江には魚や魚介類がたくさん生息しています。

海岸線の長さは1650キロ。そこに16の入り江と700ものビーチが点在していて、リラックスしたりマリンスポーツを楽しんだりすることができます。

フィステラ岬から北沿岸部はリアス・アルタ、そして南沿岸部はリアス・バイシャスに分けられています。北のリアス・アルタは険しい崖が多くてその景色は素晴らしく、南は気候が穏やかでバケーション時期の避暑地として人気です。

リバデオの入り江はガリシア州最東にある入り江で、ガリシアとアストウリアスの州境にあります。その豊かな湿地には多様な植物が生息しています。またルゴ県のマリーニャ地方にはフォスとビベイロの入り江があります。

ア・コルーニャ県には11の入り江があります。オ・バルケイロとオルティゲイラの入り江には、エスタカ・デ・バレス岬やオルテガル岬があります。

フェロール、アレス、ベタンソス、そしてア・コルーニャの入り江一帯は、アルタブロ湾と呼ばれます。その周りには真っ白で細かい砂のビーチが多数あり、波も静かなので家族でリラックスしたり、ボートやサーフィンを楽しんだりするのに最適な場所です。

コスタ・ダ・モルテ地方にはコルメ、ラシエ、カマリーニャス、そしてコルクビオンの入り江があります。ここの景色から



Cabo Ortegal
オルテガル岬



Ría de Vigo
ビゴの海岸



Castillo de San Felipe, Ferrol
サン・フェリペ城 (フェロル)

は冬の間も大西洋の強い波が休まず打ち当たっているのがわかります。

リアス・バイシャスはその過ごしやすい気候が特徴的で、ゆったりと時間を過ごしたい人たちの避暑地となっています。ムロスやノイアの入り江には素晴らしい砂浜があります。

アロウサの入り江ではたくさんの女性たちが貝をとっているのを目にします。またビゴの入り江では、水に浮かぶ「バテア」と呼ばれる何百もの貝の養殖場があることで有名で、ガリシア大西洋諸島国立公園にもここからアクセスできます。また金銀財宝が積まれたまま沈んでしまったガレオン船の伝説も残っています。





Parque Arqueológico da Arte Rupestre de Campo Lameiro
カンポ・ラメイロ考古公園の岩絵



Cruzeiro en Combarro, Poio
コンバーロのクルセイロ (ポイオ)



Dolmen de Axeitos, Ribeira
アシェイトスのドルメン (リベイラ)

ペトログリフ、ドルメン、カストロ

ローマ時代以前からの遺跡ペトログリフは、遙か昔の時代、未だ持つて解明されていない岩に刻まれた図形や、巨大建築物、防衛機能を考慮した海岸や高台に建てられた城壁で囲まれた集落などについて現代の私たちに伝えてくれています。

カンポ・ライロ壁画考古学公園には80ものペトログリフがあり、ヨーロッパで最もペトログリフが集中している場所です。石に刻まれたこの芸術は、ガリシア全土に点在します。しかしそのシンボル(渦、円、迷路、幾何学標示)の意味は未だに不明です。

ドルメンの下には財宝が眠っている、という言い伝えを知っていましたか？

確実な証明はできていませんが、新石器時代のこれらの建造物は、埋葬や弔いの儀式と何らかの関係があったと考えられています。ドンパテのドルメンは傑作品のひとつで、博物館のような空間の中であってその大きさに驚かされます。

ローマ人がイベリア半島を占領したとき、現在ガリシア州がある場所の居住者たちは「カストロ」と呼ばれる集落に住んでいました。カストロは要塞で守られ、その防御力と監視力を強める為、常に高台に建てられていました。標高の高い場所に居住していたのは、他の生命体と交信していたのではないかと考えられています。保存状態が良いカストロにはサンタ・テグラ、サン・シブラオ・デ・ラス、ピラドンガ、パローニャなどがあります。



Horreo en Combarro. Poio
コンバロのオレオ (ポイオ)



Castro de Baroña. Porto do Son
カストロ・デ・バローニャ (ポルト・ド・ソフ)



Pazo de Oca. A Estrada
オカ邸 (ア・エストラダ)

オレオ、パソ、クルセイロ

農業や漁業に携わる人たち同様、石職人たちもガリシアという民俗にとって大切な役割を果たしてきました。石職人たちはクルセイロと呼ばれる十字架のモニュメント、パソと呼ばれる貴族邸宅の厚い壁、そして大切な穀物を保管するオレオと呼ばれる穀物庫などを何世紀も前から手掛けていました。

カルタノ、コンバロ、ピオルネドにあるオレオを比べてみても同じものは二つとありません。穀物を保存するこのオレオは柱で支えられ、木材や石材を使うことで風通し良く造られています。

荘園領主や権力者たちの邸宅は17世紀から19世紀にかけて建てられました。それらは主にツバキ、そして五大陸に生息する植物も植えられた荘厳な庭園に囲まれています。

マリニャン、オカ、サンタ・クルス・デ・リバドゥジャ、フェフィニャンスのパソが、その典型的な例です。

ガリシアには約12000ものクルセイロがあります。道や教会近くに建てられたこの石のモニュメントは、巡礼者たちを守ろうとする地元の人たちの想いを表したものです。

14世紀のメリデのクルセイロ、そして19世紀のオ・イオのクルセイロは聖書に記された場面が彫られた素晴らしいモニュメントです。



ガリシアに関する10
のキーワード





ガリシアに関する10のキーワード

ガリシアは、あなたの五感を目覚めさせてくれる場所。森の香り、荒波の音、何千年も昔の石の感触、そして野生動物とのふれあいは、自然と遺跡がたくさん残るガリシアでしかできないことです。

ガリシアに来て、ゆっくりと、そしてあなたの好きなようにこの地を体感してください。数日で体験できる70ものアクティビティをご用意しています。ガリシアを移動するにつれて森で目にすることができる「緑」。オス・アンカレス、フラガス・ド・エウメ、またコルテガダ島などの森で見ることができる「緑」のトーンの多さにきっとあなたも感動することでしょう。

川や小川、源泉などが無数にあることでガリシアの緑は豊富です。ガリシアは「1000の川が流れる地」と呼ばれています。是非、この地でそれを実感してください。しかし川だけではもちろんありません。大西洋に囲まれたガリシアにはたくさんの自然海浜があります。金色に光る細かい砂のビーチはゆっくり休むのにも、そしてマリンスポーツを楽しむのにも最適です。

コスタ・ダ・モルテ地方やリアス・バイシャスにある村で食べ歩きするのもいいでしょう。そこでは海と共に生活する女性や男性たちの仕事を目にする事ができ、新鮮でおいしい魚やシーフードを食べることができます。

魔法がいっぱい詰まったこの土地には聖地もたくさん。洞窟芸術、カストロ、パソ、そしてその庭に咲き誇るツバキなど、キリスト教と非キリスト教が融合している場所が数多くあります。



サンティアゴ巡礼の道 (1)

巡礼の道で、イベリア半島とヨーロッパの文化交流のための道です。世界遺産でもあり、国際的に最も歴史がある巡礼の道となっています。

サンティアゴ・デ・コンポステラ (2)

ガリシア州の州都。毎年何千もの巡礼者たちが、サンティアゴを目指して歩き続けます。その大聖堂と旧市街は、世界遺産に登録されています。

サンタ・テグラ (3)

ローマ時代以前の居住遺跡カストロから見下ろすと、ミーニョ川が大西洋へと続くガリシア州とポルトガルの境界が一面に広がります。

ヘラクレスの塔 (4)

伝説によると、ヘラクレスが巨人ヘリオンを倒し、その首を埋めた場所。その上に灯台が建てられ、現在では唯一稼動しているローマ時代の灯台です。

フィステラ岬 (5)

古代には、太陽の光が届かなかったとまで言われる世界の果て。大西洋に面したこの自然の大地まで、コンポステラを訪れた多くの巡礼者たちが足を延ばします。



シェス島 (6)

イギリスの大手新聞ガーディアンに「世界一美しいビーチ」と称されたロダスのビーチ。天国のようなシェス島にあり、ガリシア大西洋諸島国立公園の一部でもあります。



フェロール・デ・ラ・イストラシオン (7)

漁村としてつくられたフェロールは16世紀から発展し、18世紀にはヨーロッパの軍事基地となってスペイン海軍の港としての機能を果たしていました。

カペラダ山脈 (8)

ヨーロッパ大陸の中で一番高い崖。その標高は600メートル。崖の上には野生の馬が生息し、サント・アンドレ・デ・テイシド村があります。



リベイラ・サクラ (9)

ブドウ畑とローマ時代の建築物が無数に立ち並ぶ山の斜面。シル川とミーニョ川へと下るこの景色は絶景です。

ルゴの城壁 (10)



保存状態のとても良いローマ時代の市壁。その上を散歩しながら、大聖堂が建つルゴの旧市街を見下ろすことができます。伝説によると、この市壁は聖なる森を守るために建てられたそうです。



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10

25



ガリシアの森

心に安らぎを与えてくれる森の緑、明け方の霧、そして川のせせらぎ…。このまま森に迷い込んでしまいたいそうです。

オス・アンカレス

オ・コウレル同様、オス・アンカレスもガリシアの中で動植物が保護されている地域です。キツネ、イノシシ、オオカミ、ノロジカ、鳥類、さらにクマなども生息しています。ハイキングコースがあるので、ハイキングを始める前には、自然センターでインフォメーションをもらっておきましょう。

雪が滑り落ちやすいように藁を屋根にひいた、パヨサと呼ばれる家をピオルネドなどの村で目にすることができます。これはローマ時代以前の建物で、ほんの数十年前まで実際に人が居住していました。ここではセイヨウヒイラギといったナラの原生樹林が育ち、冬には雪の間からその赤い実をのぞかせます。

ルゴ県バレイラにあるフラガ・ダ・マロンダの森では、その多彩な景色に目を奪われます。

明確な標識があるので、橋、水車、穀倉などがある場所へ容易に行くことができます。水車と穀倉には、この地の建築スタイルが現れています。また、何百年も行き続けるこの森を通り、カンタブリア海へと通じるエオ川の上流もこの近くです。

ガリシア原生植物が集る深いこの森にはナラ、樺、クリ、オーク、セイヨウハシバミ、セイヨウヒイラギなどの木々が集っています。



Aldea de Piornedo, Cervantes
ピオルネド村 (セルバンテス)

この高い山を行けば、ガリシアでもめずらしいオークの森があります。この品種は乾燥した場所を好みます。魔女が住んでいた、といわれるこの森の秘密を探しに、森へ足を踏み入れてみませんか。

ベセリア市に位置するこの森は、その深さが特徴で、木々を抱きしめるコケや地衣類を目にすれば、この地の自然が人間の手で汚されていないことが感じられます。

アス・ノガイスにあるソウト・デアグエイラの森では、樹齢100年以上のクリの木を目にすることができます。クリは実を食べるのはもちろん、家庭での自然治癒の材料として、昔から地元の人たちの生活の一部となっていました。

開いたイガグリの中から丸々と太ったおいしそうなクリが顔を現し、それらが地面一面を覆う秋が一番いい観光時期です。



デベサ・ダ・ロゲイラ

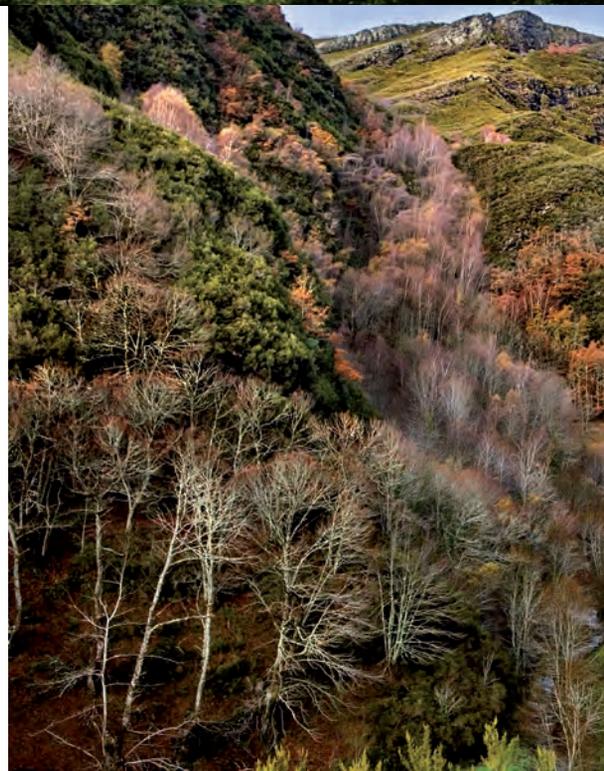
フォルゴソ・デ・オ・コウレルにあるデベサ・ダ・ロゲイラの森にはたくさんの植物が生息し、自然とハイキングを愛する人たちには最適な場所です。

ここは生息している植物の種類がガリシアで一番多い場所で、ガリシアで一番美しい森と称されています。

ブナ、ナナカマド、カエデ、クリ、ナラ、針葉樹とたくさんの種類があり、その緑も様々。五感を通して楽しめる森です。

このハイキングコースは約9キロでレベルは中級。ハイキングを始める前に、セオアネ・ド・コウレルにあるモレダの自然センターでインフォメーションを確認しましょう。

ラグーンからの絶景を楽しんだら、ハイキングコースの終わり、フォルミゲイロスの丘は間近です。







フラガス・ド・エウメ

「大西洋で最高の森」と称されるフラガス・ド・エウメ自然公園。この森を歩けば、新生代の頃から生息していたとみられるシダ植物や地衣類など、無数の植物を目にすることができます。

広さ9000ヘクタール以上のこの森には事実上手が加えられておらず、森の中にもほとんど人は住んでいません。

この森の近くにはベタンソスとアレスの入り江があり、一年中過ごしやすい気候が続きます。静かな森に常に響く滝や湧水の音。その音をつたってハイキングコースを歩くこともできます。

人間には近づかない動物ですが、注意して地面を見てみるとオオカミの足跡が見られます。

12世紀に建てられたカアベイロ修道院は、この地域に住む隠遁者たちの収容の為に建てられました。ここでは先住民たちが体験していた精神的な安息と静寂を感じられます。森林と川のパノラマは最高です。

森林区域外になりますが、近くにはもうひとつの建築の宝があります。ランブレ川が流れる小さな谷にあるサンタ・マリア・デ・モンフェロ修道院です。

小さな石と粘板岩が組み合わされてチェス板のようになったファサードには圧巻されます。また内部には美しく細やかな



Puente Medieval sobre el río Sesín
セシン川にかかる中世の橋



装飾が施された、有力なアンデラ家の棺があります。

その近くのアランガ市にはもうひとつの自然の宝物、フラガ・ダス・バルブダスがあります。ここにはたくさんの滝があり、20メートル以上のものもあります。植物の種類の高さも驚きです。

注ぎ込むカンバドス川とマンデオ川に潤されるこの自然地区にはキツネ、オオカミ、ヤギ、ノロジカなどが生息しています。

この地域では草地や畑など、ガリシアの典型的な風景に囲まれたバレイロス発電所やオ・コウセ村を見ることができます。





コルテガダ島

アロウサ入り江にあるコルテガダ島は、オンス、シエス、サルボラ島と共に大西洋国立公園の一部になっている島です。保護地区のため、見学には船での到着時間を報告する必要があります。

世界中から植物研究者たちが見学に訪れるこの島の、表面を覆う月桂樹の森は圧巻です。まさにこれは、自然の宝物。シーフードの調理に月桂樹の葉は欠かせません。船から降りて、観光所で散策ルートの説明を聞きましょう。二つあるルートはどちらも簡単に歩き終われます。

一つ目のルートは島をぐるりと一周するルート。そして二つ目は、途中までその道を通り、それから月桂樹の森の中を通るルートです。どちらのルートも、17世紀の頃に病気を治してくれるとして巡礼者たちが参拝していた聖母ミラグロスの教会の遺跡からはじまります。

島の周りには波が穏やかで静かなビーチが点在し、リラックスしながら散歩したり、その美しい水で泳いだりすることができます。







魔法の聖地

信仰が深く、迷信の多い土地、ガリシア。何百年も前から教会はキリスト教の祭儀と非キリスト教の伝統を融合してきました。そんな教会からは、他では見られない素晴らしい眺望を目にすることができます。

3つの聖地への旅

これはコルーニャ県にあるフェロールからルゴ県のビベイロまでの旅です。このルートには、大西洋の厳しい荒波に打たれる最北の海岸が含まれます。

この土地の一部となっている迷信と伝説。自然に存在するものの治癒力、キリスト教と非キリスト教の精神的な信仰心が融合している土地です。願いを成就するため、聖人に祈るため、そしてその素晴らしい景色を展望するため、毎年たくさんの信者たちが次の3つの聖地を訪れます。

フェロールではア・マダレナ地区の散歩がお勧めです。ここでは啓蒙時代、軍事基地の建設で花開いたこの町の産業や漁業の遺産を目にすることができます。

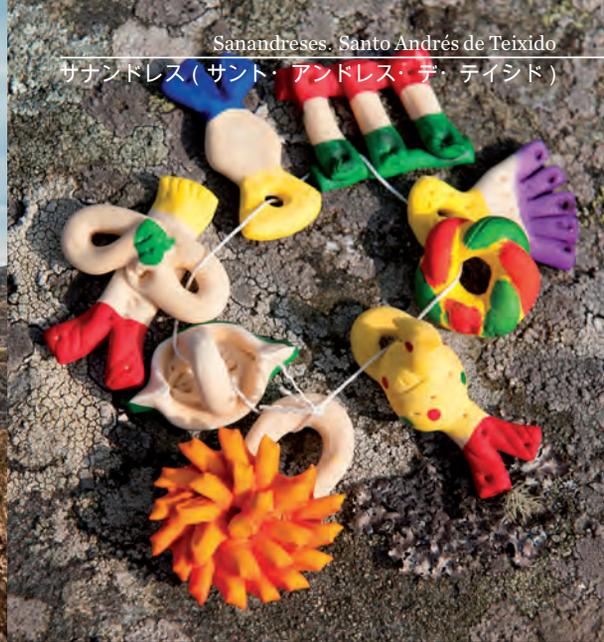
一つ目の聖地はチャマコ教会です。教会の聖母像に対する漁師たちの信仰心が、この名前に現れています。というのは、船が難破するときに漁師たちが神からの救いの手を待ち望みながら「シャ・モロ(もう死ぬ!)」と叫んだことからこの教会の名前がついたそうです。まずはこの聖母の前で一つ目の願い事をしましょう。

海岸沿いに進むと、コバス、バルドビーニョ、パンティン、ピラルベのビーチがあります。一年を通して心地よく散歩でき、サーファーたちに人気のビーチです。

サント・アンドレ・デ・テイシド教会には、「今世で一度も訪れていないものは、死後に三度訪れる」という言い伝えがあります。。巡礼者たちは自然海浜に囲まれた景色の中、この聖地を目指して50キロ歩きます。聖アンドレ・デ・テイシドにま



Sanandreses. Santo Andrés de Teixido
サナンドレス(サント・アンドレス・デ・テイシド)



Serra da Capelada
カペラダ山脈

つわる儀式はたくさんあります。この18世紀の教会で、二つ目の願い事をするのを忘れないでください。

セデイラの町へ向かう途中にあるカペラダで山脈にはヨーロッパでも屈指の高い崖があり、大西洋を一望できます。ここから見る夕日は言葉に表せないほど美しいもの。近くの村では新鮮なマテ貝やカメノテを味わえます。

世界で一番素晴らしい景色はどこで見られると思いますか？それは、ロイバの崖にあるベンチから見るができます。ベンチに座って深呼吸して顔に風を感じながら、長く続く入り江とオルテガル岬、エスタカ・デ・バレスを望んでみてください。

三つ目の願い事をするのは、ピベイ口の町のコンセプショニスタ修道院にある聖母ルルデスをまつる岩壁の礼拝堂です。



聖地とブドウ畑

このルートはオウレンセ県のエスゴスから始まり、同県中部に位置するオ・ボロで終わるルートです。

これらの険しい山は、その昔に数多くいた隠遁生活者たちには最適な場所でした。ゆっくりとした時間が流れる山には、歴史を伝えてくれる建築物の遺跡が点在としています。

最初の目的地は、サン・ペドロ・デ・ロカスです。リベイラ・サクラ地方の中心に位置し、昔からのブドウ畑がたくさんある場所です。ガリシアでキリスト教が発展したのはこの修道院からでした。その内部には、世界で唯一のローマ時代の世界地図が残っており、聖地を示した世界地図と呼ばれています。

6世紀のものである修道院には、岩を掘って造られた3つの礼拝堂があります。またそこにある棺は、私たちが過去の時代にタイムスリップさせてくれます。まるで遠く離れた時代に生きた人たちの寂しさを感じることができるようです。近くにはイボやシワに効能があると言われる泉があります。

リベイラ・サクラ地方にあるビジターセンターでは、この地域の伝統や昔ながらの仕事をはじめ、製造されているワインについて学ぶことができます。

その近くにサンタ・マリア・デ・モンテデラモ修道院があります。修道院の正面入り口にはここを建設した修道士の像が





あります。プロセシオナル回廊とオスベダリア回廊は必見です。
その先にはオス・レメディオス教会が建つカストロ・カルデラスや宗教芸術美術館があります。村の高台には600年以上も前に建てられた古城もそびえています。村には民俗学センターがあり、当時の人々の生活風景を学ぶことができます。

ビベイ川にはトラヤヌス皇帝によって造られたローマ時代の橋がかかっています。23メートルの橋を渡るとトリベス村へと入っていきます。

オ・ポロにはエルミダス教会があり、羊飼いの子どもたちが洞窟で発見したとされる聖母の像があります。この素晴らしい建物のファサードは18世紀に岩を掘って建設されました。聖週間の間は、お祭りで人がにぎわいます。

オ・バルコに向かう途中、バルデオラスには一面にブドウ畑が広がります。サン・ミゲル教会と修道院のあるシャゴアサが近くににあります。

サン・ミゲル教会はローマ時代の建物で、16世紀の外壁が保存されています。修道院はその後、18世紀に建てられました。

その1階のワイナリーでワインの試飲をしたり、2階では木造の回廊を見学したりすることができます。



隠れた遺産

ガリシアには、一見目立たないけれども素晴らしい遺産がたくさんあります。のどかな田園風景が広がる土地。その村々をたずねてみてください。教会、修道院、ペトログリフ、オレオ(穀倉)、パソ(貴族の邸宅)、水車など、その隠れた遺産が見つかるはずですよ

オウレンセ県: 魅惑の石

国内でオレオが一番多く見られる場所、それがア・メルカの町です。オレオはガリシアで使われ続けている穀物倉庫。この町には34ものオレオがありますが、基礎には石材、壁には木材が使われ屋根で覆われているという共通点があります。また同じ方角を向いて建てられており、民俗学的に見ても貴重な建物です。

セラノバへの途中、ピラノバ・ドス・インファンテスにたどり着きます。ここは昔からの家や邸宅が立ち並ぶ中世の小さな村です。村の高台には城の塔がそびえ立ち、ロマネスク様式の教会もあります。

セラノバ広場へ入ると、聖サルバドール教会と修道院の荘厳なファサードが私たちを迎え入れてくれます。そのすぐ近くには、モサラベ洋式のサン・ミゲル教会があり、その小ささと建築様式が注目されます。

そのまま南へ進むと、西ゴート族が7世紀に建てたサンタ・コンバ寺院のあるバンデがあります。近くには恋愛に効果がある水として言い伝えられる、ポシーニョ・ドス・ナモラドスの泉もあります。

ロピオスには、バロック様式のサン・サルバドール・デ・マニン教会があります。18世紀と20世紀の2回に及ぶ建物の移動時には、石をひとつひとつ移動させて再建されました。ムイニョ市ではアス・マウ・デ・サラス、巨大遺跡やドルメンといった遺跡があります。

アジャリスの町を歩けば気分は中世時代。歴史地区では石や木でできた建物を目にするすることができます。アルノイア川を見ながらのお食事を楽しめます。

マセダ市には、ガリシアで最も素晴らしい城のひとつがあります。この城は中世の時代に起こった数々の侵略を目撃してきました。





Puente de Vilanova. Allariz
ビラノバ橋 (アジャリス)



Conjunto de hórreos. A Merca
オレオ群 (ア・メルカ)



カストロ、水車、サンベニートス

これはトウイから始まってモンダリスで終了するコースです。どちらもポンテベドラ県に属しています。典型的な中世の街並みを象徴する路地と要塞としての役割も兼ねた大聖堂で有名なトウイ。そこにはゴダヤ人街の遺跡が見られます。

ミーニョ川でとれるうなぎの稚魚などといった郷土料理をバルやレストランなどで楽しみながらその旧市街をぶらりと散歩してみれば、まるで他の時代にタイムスリップしたようです。

ここにある宗教博物館の中にはスペインで唯一保存されているサンベニートのコレクションがあります。サンベニートとは、異端裁判で有罪になったものたちにかぶせる大きな帽子です。有罪者たちは火のついたろうそくを持ってこの帽子をかぶり、裸足で歩かされました。昔は、この見せしめが社会の模範になるとされていたのです。

トミーニョに行く途中、ミーニョ川のほとりにゴイアンの城砦があります。これは17世紀、防御の目的で川の両側に造られた建築物です。

ア・グアルダへの途中では、17世紀のオ・フォロンと18世紀のオ・ピコンの水車を目にすることができます。このあたりでは67の水車を見ることができます。ア・グアルダにあるサンタ・テグラのkastroは保存状態の良いkastroのひとつです。森の上から見るミーニョ川下流は最高の見晴らしです。古代の人たちの生活を伝えてくれる発掘物の他にも、異なる形の家やベトロ



グリフも目にすることができます。

ア・グアルダ市とオ・ロサル市にまたがるミーニョの湿地帯は、カストロの上からその環境的価値をはっきりと見ることができる広い湿地です。この地域の郷土料理の中で特に有名なのはエビ料理です。是非食べてみてください。

道を進むと、ファザードが海に面しているオイア修道院があります。バイオナについたら、ピンタ船のレプリカがある場所まで旧市街地を歩いてみてください。新大陸を発見した船のひとつ、ピンタ船がたどり着いたのが、ここバイオナでした。そのあとはモンダリスの温泉で一休み。私服の時間を楽しんでください。



灯台と自然海浜

1600キロの沿岸があるガリシアは、ビーチと海の土地です。休みなく打ちつける大西洋の波が金色の砂と崖をつくりあげ、他にはない自然の美しさをガリシアにもたらしてくれています。

灯台と世界の果てにあるビーチ

大西洋の荒波が打ちつける沿岸のルートをご紹介します。この旅はベルガンティニョスのマルピカから始まり、フィステラで終わるルートです。

コルーニャ県にあるこのルートは荒波による漂流や難破が多いので、コスタ・ダ・モルテ（死の海岸）と呼ばれます。冬場、風のある時期には漁に出るのが難しくなります。

ベルガンティニョスのマルピカ地域では、究極の状況のおかれた漁師にとって灯台が命綱であることを確認できるでしょう。船の形を模したナリガ岬の灯台は、ガリシアでも重要な灯台のひとつです。ロンクド岬で獲れるカメノテは世界で一番の味だといわれ、レストランや市場で高い人気を誇っています。ここからは、鳥類保護区とされているシサルガス島が見えます。

カマリーニャスへ向かう途中では、ラシエの町にあるソエスト・ビーチとトラバ・ビーチに立ち寄ってみてください。大西洋の強い風と波を感じると同時に、細かい浜辺の砂を楽しむことができます。

カマリーニャスは、ピラン岬の近くにある漁村です。その灯台は海上100メートルあり、スペイン沿岸で電気稼働した最初の灯台です。難破博物館では、美しい海について知ると同時に、150の難破が起こったこの地域の航海がどれほど危険なのかを学ぶことができます。



Faro de Cabo Vilán
ビラン岬の灯台

この地域の海の厳しさは、イギリス人墓地へ行けばよくわかります。19世紀、艦船HMSサーベントの乗組員172名が亡くなりました。この地域のビーチは自然海浜で、浜辺にはシエス島同様、カマリーニャと呼ばれる原生樹林が育ちます。この町の名前はそこからきました。イベリア半島の一番西には、美しいネミーニャ・ビーチのあるトゥリニャン岬があります。その近くのファチョ山からはムシアの町を望むことができます。

ローマ人が地の果てだと思っていたフィステラ。巡礼者の多くにとっては、ここがサンティアゴ巡礼の最終ゴールです。混みあうことの少ないオ・ロストロやマル・デ・フォラのビーチでは、ゆっくり散策が楽しめます。周辺の崖上から夕陽をみることもお忘れなく。



海の大聖堂

リバデオの村からビベイロまで、ルゴ県の東沿岸をご紹介します。

リバデオはルゴ県のマリーニャ地方にあり、その沿岸には人魚と漁師についての伝説がたくさんあります。旧市街地にはインディアナ洋式の建物が数多く残されています。パンチャ島まで歩いて行くことができ、白に塗られた19世紀の灯台と、青に塗られた1987年に建てられた灯台が見られます。

ここでは、リバデオ近くにあるリンロ漁村に是非立ち寄ってみてください。その小さな港に運ばれる、獲れたての魚介類で作るバエリヤが食べられます。そのままオス・カストロス・ビーチまで歩き、自然にできたトンネルを通れば、海岸まで出られます。

次に訪れるのはアス・カテドライス・ビーチです。聖週間と夏季には見学許可について事前に調べておくといでしょう。潮が引いているときは、数世紀にわたって打ち寄せた波によって形成された岩のアーチの間を歩くことができます。30メートル以上のヴォールトとグロツト。もっと高い場所からこの景色を見なければ、崖の上から下を覗いてみてください。次はペイサス・ビーチやファソウロ・カストロを訪れましょう。

ガリシアで最も有名な陶器は、19世紀にその活動を開始したサルガデロスです。その青の色彩は特徴的。置物や食器は、お土産にもぴったりです。

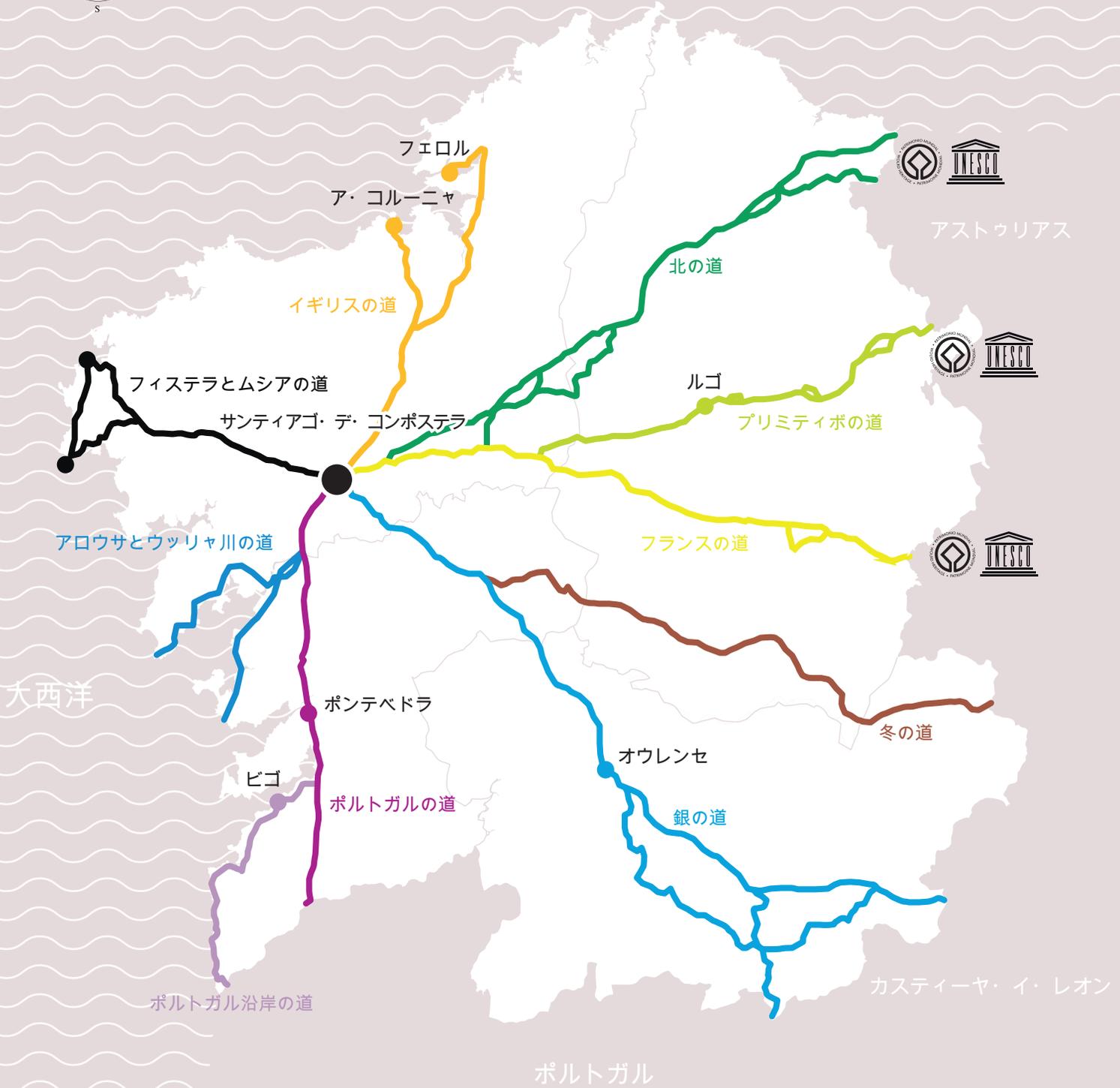


その近くのセルボ市にはシブラオ岬があります。周りには、波の激しい日に海から顔を出すア・マルシャイナという名の人魚が住むというオス・ファラヨンス島などが点在します。しかし、この人魚が姿を現すのは漁船を難破させるためなのか、それとも難破した漁師たちを助けるためなのかはわかりません。

セレイ口の港近くにあるレストランで一本釣りされたメルルーサ料理を楽しむ前に、緑もあってピクニックもできるシヨベの町のエステイロ・ビーチに行くのをお勧めします。ビベイ口の町へ行く前に、ファロ山からの眺望を楽しみましょう。中世の趣が残る旧市街地があるビベイ口の町。この聖週間は国際観光行事に指定されています。



カンタブリア海



サンティアゴ巡礼の道

ヨーロッパ最古の巡礼の道。ヨーロッパ大陸とイベリア半島の各所からサンティアゴ・デ・コンポステラまで複数の巡礼道があります。巡礼の道は、歩く経験を分かち合いながら人生観を変える道。この経験は精神的、宗教的、そしてスポーツとしても五感に残る旅になります。





フランスの道

この巡礼の道はルゴ県のオ・セブレイロから始まり、コンポステーラ大聖堂にある使徒ヤコブの前で終わります。

オ・セブレイロは、オス・アンカレスとオ・コウレルの間に位置します。ここでは冬場、雪が滑り落ちやすいように屋根に藁をしいたパヨサと呼ばれるガリシア独特の家を目にすることができます。何世紀もの間、これらの家がどのように使われていたのかを民俗博物館で目にすることができます。

ここにはサンタ・マリア・ア・レアル教会もあります。聖爵やパテナなどのローマ時代の宝物が保存されているサント・ミラグロ礼拝堂があります。

サモス方面には絶景ポイントのリニャレス、コンデサ病院、そしてアルト・ド・ポイオがあります。「カリクストゥス写本」最後の書に記されているトリアカステラには、巡礼者のための宿泊施設もあります。

オリビオ川とサリア川で獲れるマスが有名なサモスでは、モサラベ洋式のシプレス礼拝堂とサン・シュリアン修道院などを訪れることができます。修道院と教会を見学すると、まるで遠い次代にタイムスリップしたかのようです。旅のルートはポルトマリンへと続き、巡礼の道でも最も有名な町のひとつであるサリアへ到着です。

この町を出てサンティアゴへ到着すると、巡礼者には「ラ・コンポステーラ」という100キロ歩いた巡礼証明書が発行されます。バルバデロの町では、文化遺産に指定されているロマネスク様式のサンティアゴ教会が見学できます。





近くにはベレサル貯水湖のあるポルトマリンがあります。昔、この貯水湖の水が村に浸水したため、聖ニコラス教会を含むいくつかの建物は石を一つひとつ移動させて他の場所に再建されました。水位が低い時は昔の村の跡が姿を現します。アーモンドケーキ、蒸留酒のアグアルティエンテ、そして地元で有名なウナギのエンパナーダも食べてみてください。

パラス・デ・レイ市では、14世紀のフレスコ画で内部装飾されているピラル・デ・ドナス修道院が有名です。ここから何キロが行くと、ガリシアの重要な軍事建築とされるバンブレ城があり、原生植物の生息する地域で囲まれています。

メリデの町に立ち寄って一息つきましょう。ここでは、ライ麦パンと一緒に食べるタコのガリシア風料理が有名です。またメリンドレという小さなお菓子もとても有名です。伝統的な食品の他にも、クリーミーなアルスア・チーズも有名なので、是非立ち寄ってみてください。

ここからサンティアゴ・デ・コンポステーラまでは、もうすぐそこ。待ちに待ったゴールに到着すると、カテドラルで正午に行われる、巡礼者たちを迎えるミサがあります。それが終わると主祭壇にある使徒ヤコブの像を抱擁することができます。

7月25日が日曜日と重なる聖年にだけ開く聖なる門や、遺骸が保存されている礼拝堂、博物館、地下聖堂も見学してください。

San Salvador de Vilar de Donas, Palas de Rei
サン・サルバドール・デ・ビラル・デ・ドナス
(パラス・デ・レイ)



銀の道

ベリンからサンティアゴ・デ・コンポステーラまでの道は「銀の道」または「南東の道」と呼ばれています。

ベリンで最初に目に付くのは、ベリンの村とタメガ川の渓谷を見下ろす塔がそびえ立つモンテレイ城砦。アクロポリスの高台にあり、800年も前からポルトガルとの国境を望んでいます

ペドロ1世の妃の裏切りや自殺の話と関連づけられるボン・ベルデもここに 있습니다。食に関してはタコのカリシア風、タラ、アンドロイヤ、豚肉ハムなどをこの地のワインで食べるのが典型的です。

旅を続けるとアジャリスの近く、アウガス・サントスにたどり着きます。この最後の村には、カリシアで最も有名な歴史地区があります。そこを散策すればメリンドレやタルタ・レアルというケーキ、ヤギの乳でできたレシヨ・チーズなどが楽しめます。

カリシアの温泉地域、オウレンセ県には重要な歴史地区があり、聖クリスト礼拝堂で有名なカテドラルがあります。67度のお湯が湧き出るアス・ブルガスには、町の地下に活動していない火山があるとする伝説があります。

さらにここはオ・リバイロ・ワインの中心部。リバダビアには重要な歴史的芸術遺産が集り、カリシアの中でも特に有名な城砦のひとつ、コンデス城があります。





Allariz
アジャリス

この地域のワインを試飲できるワイナリーの見学はとても興味深いものです。また、旧ユダヤ人地区で販売されているお菓子も忘れずに食べてみてください。

リバダビアのすぐ近くにはライアス温泉があるので、レイロ市にあるサン・クロディオ地域のワイン畑を巡ったあとは、ここで一休みするのもいいでしょう。

セアはガリシアでもパンがおいしい地域として有名です。オセイラ修道院の修道士たちが作る、ユーカリの葉でできたお酒も是非飲んでみてください。

その大きさに驚く修道院の内部には礼拝堂、階段、そして教会があります。

ガリシアの州都、サンティアゴ・デ・コンポステーラには、ポンテ・ド・サル通りから入ることができます。そばには同じ名前の学校もあり、その斜めになった壁はカテドラルのアーチとつながっています。

カテドラルが主役の旧市街地はすぐ近く。細長い路地を通り抜けると、荘厳なおブラディオ広場に出ます。

手作りのお土産を買ったり、バルでタパスをつまんだりできるアバストス市場も必見です。



源泉

国内でも一番の温泉地域であるガリシアには300以上の源泉が存在します。その多くは自然のミネラル分などが豊富で治癒効果があります。

温泉とオ・リベイロのワイン

オウレンセ県のセンジェとサン・アマロを巡ってみると、この地の豊富な温泉とワインを実感することができます。

オ・カルバジーニョとオ・リベイロは、ガリシアの中でもっともおいしいワインの一つ、原産地呼称オ・リベイロがある場所です。温泉と同様にブドウ栽培もこの地域に多大な経済効果をもたらしています。

ライアスの村ではワインはもちろん、この地域の特産物を使った郷土料理が地元の民宿や温泉ホテルで食べられます。これら宿泊施設の多くは、ローマ時代の金発掘時に利用されていた場所です。

ガリシアで一番長い川、ミーニョ川の川辺を歩いてみましょう。ライアスからバルバンテス・エスタシオンまでの間は、自然を満喫できます。マッサージを受けてリラックスしたり、カストロ・デ・ミーニョ貯水湖を眺めながらライアス温泉を楽しんだりして1日を終わるといいでしょう。

セアのパン、オ・カルバジーニョのタコのガリシア風、クリームのかまめたロールパイ、コーヒー味の蒸留酒（アグアルディエンテ）などがこの地方で有名です。

ここでは、アントニオ・パラシオスが設計したベラクルス寺院の面白い建築を見ることができます。彼の歴史的なスタイルは複数の時代の装飾様式とあいまって、独自の建築スタイルとなっています。



オ・カルバジーニョにも温泉があり、数年前から持病を持った人たちが湯治に訪れたりしています。

ガリシアで一番大きいカストロの一つ、サン・シブラオ・デ・ラス・カストロはア・シダデ(「町」と呼ばれていて、プンシン市とサン・アマロ市の間にあります。2世紀からカストロ文化の終わりまで人々が住んでいました。同心円型の防壁と集落への水の供給源となった井戸が見どころです。

シトー会修道僧たちが最初に苗木を植えたというぶどう畑の周辺には、ワイナリーが点在しています。ワインを試飲して、その土地ならではの味に浸ってみましょう。6世紀に建てられたシトー会修道院は、今日では芸術的な回廊を持つホテルとなっています。



オ・シュレス公園の水と冒険

バンデとロビオスまで行くルートです。この最後の温泉地域は治療効果のある源泉で有名です。

旅が始まると、深い森と緑の丘に囲まれたローマ時代の居住遺跡を目にすることができます。ここでは水の流れを楽しむだけでなく、ノロジカ、馬、オオカミなど自然の動物に出会うこともあります。

サンタコンバ・デ・バンデ教会は、昔の修道院の中で唯一残っている部分です。7世紀に建てられたその遺跡の規模は小さいながら、ギリシャ十字の建物の外側には柱廊があり、その全体的な大きさが想像できます。「受胎告知」や「父なる神」、そして4人の伝道師のフレスコ画があります。

近くには1世紀のローマ時代の軍事基地、アクイス・ケルケニスがあります。ここからアストルガとブラガをつなぐ重要な道の建設が始まりました。リミア川沿岸にあり、川が増水するとそこに沈んで見えなくなってしまう。遺跡の他にもその機能や構造などについてを見学センターで学ぶことができます。

ロビオス温泉では70度の炭酸水素塩泉が楽しめます。シュレス山脈の見学者たちが一休みする場所です。散策をしな



がら温泉へたどり着くこともできます。また水車、パン、水の中に見える様々な青のトーンを楽しんでください。

この地域ではジビエや牛肉が有名ですので、食事の時には是非それらを食べてみてください。草原に自然生息しているカチエナという固有品種の牛肉も人気です。

温泉から始まるコルガ・ダ・フェチャのルートでは、アキス・オリジニス邸の遺跡を通ります。ここでは台所、浴場、またローマ帝国時代に使用されていた床暖房設備などを目にすることができます。



ブドウ畑での散策

5つの原産地呼称があり、ワイン作りには何百年もの歴史があるガリシア。そのワインは、もはや世界中で人気です。この土地のワイン造りを、是非見学してみてください。

アルバリーニョの産地、カンバドス

カンバドスは、アルバリーニョという有名なブドウがつけられるルートのスタート地点。

優雅な村カンバドスは、豪華な建物と伝統的な漁師町が一緒になった場所です。原産地呼称リアス・バイシャスを有するこの地域のワインは、この近くで獲れる魚介類と最高の相性です。

この村を訪れた時は、パセオ・デ・ラ・カルサダ、プリンシペ通りやパラドールを見学してみてください。過ごしやすい気候とおいしい料理が楽しめるこの町は、夏季には観光客でいっぱいになります。アルバリーニョのワイン祭りは全国観光行事に指定される、スペインで最も古いお祭りの一つです。夏のガリシアでは欠かせないお祭りで、各スタンドでは様々なワイナリーのワインを試飲することができます。

この地域の海岸からはラ・トー八島とアロウサ島が望めます。ふたつの島の間と沿岸にはバルやレストランがあり、近くの養殖場で獲れるムール貝とカキのおいしさは格別です。ガリシアの入り江の自然環境の良さが、世界的に注目される魚介類の質の秘密です。

フェフィニャンス邸は、ガリシア荘園建築の良い例のひとつです。サン・ベニート教会の隣にあるこの邸宅は16世紀から建築が開始され、芸術要素が加えられた建物です。



中庭には子爵フェフィニャンスと公爵フィゲロアの紋章があります。L字形の建物の広場には塔があり、またこの地域で最古の1904年に建造されたワイナリーもあります。ぶどう畑めぐりや樹齢100年以上のツゲ属の木々などの原生林が生い茂る庭園を散策することもできます。

民俗学・ワイン博物館では、カンバドスにあるサルネス地域でのワイン造りの歴史と醸造方法が学べます。その近くには聖マリーニャ・ドソ教会の跡があり、情緒漂う墓地が残っています。

サン・トメ漁村を過ぎると、中世に建てられた聖サドウルニニヨ塔の跡があるフィゲイラ島へと続く橋があります。



オ・リベイロの修道院

オウレンセ県にあるア・アルノイアを是非訪れてください。原産地呼称リベイロの名の下、ア・アルノイアはガリシアでブドウ栽培の伝統が一番残っている地域です。

フィエイラ貯水湖の畔にあるこの自治体は、温泉と同時にブドウ栽培でも有名な場所です。硫黄を含む源泉の温度は22度です。ミーニョ川の川辺を囲む森を眺めながらゆっくりテラスでくつろいでみてください。カタマラン船で川を巡れば、1930年代にタイムスリップしたようなアール・ヌーヴォー洋式の建築物が立ち並び、コルテガダ温泉に到着します。

アルノイアではトウガラシが有名で、詰め物にしたり、オムレツに入れたり、揚げたり、焼いたり、炭火焼きにしたりと、様々な料理に使われています。8月にはこの食材をテーマにしてお祭りもあります。

オウレンセ県の近く、カサノバ城では、18世紀に建てられたワイナリーを見学できます。ここではゴデージョ、ロウレイラ、アルバリーニョ、トレイシャドウラ種のブドウが栽培されています。

また、この地域のワインの発展と開発を目的とする研究プロジェクトについての説明も受けられます。ワイナリーでは蒸留酒のオルホとワインを忘れずに試飲してください。

リバダビアへと続くレイロでは、ぶどう畑に囲まれたピニャ・メイン・ワイナリーがあります。ワイン作りが行われていた大邸宅では、現在アグリツーリズムが体験できます。



Ribadavia
リバダビア



近くには、聖クロディオ修道院があります。この丘陵にブドウを最初に植えたのがシトー会の修道士ということから、オ・リベイロの発祥地と呼ばれています。この修道院は、現在宿泊施設となっていますが、回廊と中庭には自由に入って見学することができます。教会の祭壇と格子状の天井は必見です。

リバダビアの「歴史祭り」では住民が中世の服装に身をまとい、ユダヤ人街や城、昔の異端審問所を練り歩く姿が見られ、まるで時代をタイムスリップしたかのようです。ユダヤの甘いお菓子を食べて、モストラ国際劇場で観劇を楽しみましょう

同じくリバダビアでは聖シエス・デ・フランセロス教会も見学しましょう。前ロマネスク様式の建築物では唯一のもので、9世紀に建てられました。その格子装飾は圧巻です。



漁業観光

漁師や採貝の仕事がどんなものか、釣りの道具はどんなものなのか、また卸市場の様子を見たい、というのであれば漁村を訪れて漁業観光を試してみてください。

漁村：ムロス、フィステラ、ムシア

コスタ・ダ・モルテは、海と共に生きる漁師の日常が体験できる地域です。ここにはムロス、フィステラ、ムシアなどの漁村があり、険しい海岸に建つ灯台と難破船についての伝説がたくさんあります。

その昔地の果てと考えられていたフィステラ岬の周りを船で巡るルートを体験してみてください。現在では多くの巡礼者がサンティアゴ巡礼の終わりにここを訪れます。

港では、村の女性たちが漁網をつくろう姿を見ることができます。手作業による網作りができるようになるには最低でも5年かかるといいます。ムロスやムシアの港近くのバルやレストランで、水揚げされたばかりの魚介類を使った料理を是非食べてみてください

悲惨な沈没が多かったため、大西洋で亡くなった多くの犠牲者たちを弔うために建てられた十字架のモニュメントがたくさんあります。冬は波が荒いために航海に出るのが難しく、岩の合間で獲れる珍味ベルセベスの漁師たちにとっても厳しい気候です。

ガリシア沿岸で最も重要な灯台のひとつ、ピラン岬の灯台付近には美しい景色が広がります。また、難破・灯台・船舶通行博物館もあります。





Puerto de Muros
ムロスの港



Santuario de Nosa Señora da Barca. Muxía
聖母バルカ教会 (ムシア)





Campo de golf. Illa da Toxa. O Grove
ゴルフ場 (オ・グロベのトシャ島)



リアス・バイシャスを発見

リアス・バイシャスは、ガリシア人にとっての夏の避暑地です。過ごしやすい気候で、ポイロ、リベイラ、マリノ、コンバロ、カンガスなどの漁村では金色の砂のビーチが楽しめます。その正面にはガリシア大西洋諸島国立公園があります。船で諸島間を往来でき、手つかずのビーチや、保護動植物が見られます。

アロウサ、ポンテベドラ、ピゴには、漁師と一緒に漁場を巡るルートもあります。そこで水揚げされたアサリ、ザルガイなどは卸市場で販売されています。

カンバドスはオ・サルネスの谷にあり、ガリシアでも一番の荘園邸宅のある村でした。

原産地呼称リアス・バイシャスのワインが造られる場所で、この市街地を歩いてみると、荘厳なフェフィニャンス荘園に驚くことでしょう。

オ・グロベにあるサラソネス・デ・モレイラスを訪れば、漁業と採貝の仕事について学ぶことができます。ムール貝などの貝類を養殖するバテアは、リアス・バイシャスの風景の一部になっています。その周りを船で廻ってみると、その構造がわかります。沿岸に進むとコンバロがあり、収穫された穀物を収納する穀倉、オレオが目に入ります。

その裏には主に石と木でできた漁師の家が建っています。

そこから数キロ先には、ガリシアで有名な美しい歴史地区のあるポンテベドラがあります。小道や広場をゆっくり散歩したり、ガリシア地方の画家の作品を集めた県立美術館のコレクションが観賞できます。





ツバキのルート

荘園領主の庭園の主人公、ツバキ。その開花時期にここを訪れて、五感でその素晴らしさを体感してみてください。

荘園邸宅と庭園

この旅の終わりを飾るのはア・コルーニャとポンテベドラ。このルートでは、ガリシアの伝統的な素晴らしい庭園を散策し、その花の香りを感じ、愛でることができます。

ガリシアでは一年を通して、いろいろな場所でツバキの展示会やコンクールが開催されます。ここにあるツバキの質と品種は国際レベルの専門家やファンたちに定評があります。

このルートはコルーニャ県ベルゴンドにある、マリニャン邸宅から始まります。マンデオ川の脇にある大きくて幾何学模様の花壇のあるフランス式庭園では、ツゲ科の植物やバショウの樹の下を散歩することができ、ツツジ、ヘデラ、バラ、樹齢100年のリョウブ、そしてもちろん様々な種類のツバキが楽しめます。

サンティアゴ・デ・コンポステーラでは、街の中心にあるアラメダ公園の植物が有名です。カルバジエイラ・デ・サンタ・スサナの隣にある静かなこの場所にあるプラタナスと椰子の樹の下で「ハコベアス」と呼ばれる品種のツバキが咲いています。リバドゥジャのサンタ・クルス邸宅の庭園にあるツバキは、その美しさと大きさに目を惹かれます。ガリシアのツバキファンをうなずかせる庭園は、19世紀にイバン・アルマダによってその品種を増やされました。この素晴らしいガリシアの庭園は自然に、そして幾何学的に広がっています。さらにガラス製の昔の温室もあります。19世紀初頭のナポレオン占領時にはガスパール・メルチョール・デ・ホベジャンスなどといった学者や政治家たちの隠れ家でもあったところです。



「ガリシアのベルサイユ」として知られるオカ邸宅には壁に囲まれた庭園があります。そこには川のように流れる貯水池があり、赤いツバキと草木を積んだ石でできた船が置かれています。散歩を続けると、ティロスの美しい散歩道に出ます。正面のファサードはバロック様式で、アーチの回廊は私用の建物へと続いています。その内部は何世紀にも渡る家具や芸術品で装飾されています。

マタンサ邸 (ロサリア・デ・カストロ生家博物館) は、1885年に作家ロサリア・デ・カストロが亡くなった場所です。内部には知識人の友人や家族と撮った写真が飾られていて、19世紀のガリシアで使われていた日用品などが展示されています。そしてもちろん、庭ではツバキが楽しめます。

ピラガルシア・デ・アロウサでは、中世に建てられたルビアン邸を訪れることができます。その深い森のような庭の荘厳さに、色とりどりのツバキでやさしさが加えられています。中でもエウヘニア・デ・モンティホ種のツバキは有名です。国際的な賞も受賞している庭園です。私有のワイナリーがあり、原産地呼称リアス・バイシャスのワインを造っています。ワイナリーを見学し、試飲もできます。ガイド付きの見学ツアーでは、邸宅や礼拝堂の内部も見学することができます。



Pazo de Oca, A Estrada
オカ邸 (ア・エストラダ)

リバドゥミアにあるキンテイロ・ダ・クルス邸の庭は、原産地呼称リアス・バイシャスのブドウ畑に囲まれています。私有ワイナリーや原生林もあります。この庭園の一番の主人公は、1000種類以上もあり5000の花が咲き満ちるツバキです。ワイナリーを所有する邸宅は、他にもガンバドスのフェフィニャンス邸があります。

18世紀に建てられたメイスにあるア・サレタ邸には、荘園特有の礼拝堂とハト小屋、そしてもちろん荘厳な庭園があります。この古い邸宅を囲むのは200種のツバキで、1960年にこの建物を買取ったイギリス人のギブソン夫婦がイギリス風の庭園を造りあげました。そしてこれは5大陸に生息する植物が共存する、スペインで最も有名な庭園のひとつになりました。

アール・ヌーヴォー洋式の現在の建物は19世紀に建てられたものですが、ロウリサン邸宅の起源は14世紀に遡ります。54ヘクタールある敷地は、牧場と森林研究所などの施設として使われました。無数にあるツバキの種類は、この庭園に無数の色を届けてくれます。

ソウトマイオール庭園ではツバキとバラの花が咲き乱れ、年々その美しさを増しています。これらの花の周りには樹齢何百年というクリの木や、5大陸に生息する植物があります。ルビアンス庭園と同じようにソウトマイオール





Pazo de Santa Cruz de Ribadulla, Vedra
サンタ・クルス・デ・リバドゥア邸（ペドラ）

庭園も国際的な賞を受賞しています。

オ・カストロ公園では、ピゴの入り江の一番良い景色が見られます。また、ローマ時代の名残を発見すると同時に、オレンジやイトスギの間に生えるツバキを見ることができます。

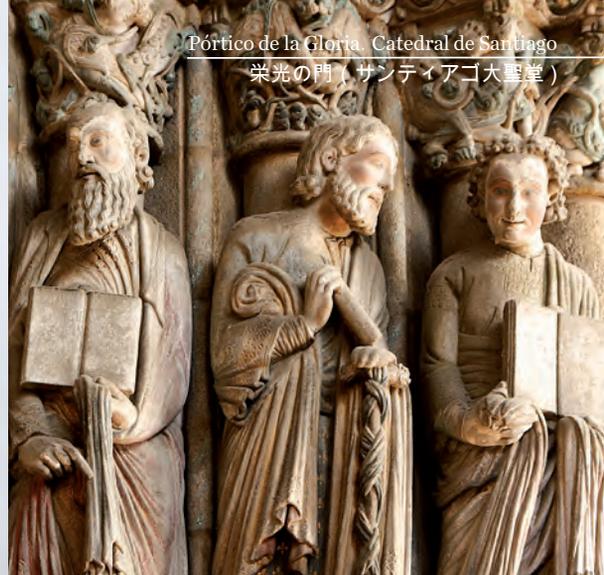
キノヨネス・デ・レオン邸は、市営の博物館となっていて、考古学品や絵画、装飾芸術品のコレクションが展示されています。博物館は庭園に囲まれており、ピゴの街の中心地で無数の植物の中を散歩することができます。ツバキの開花時期は2月の終わりなので、この時期になると素晴らしい景色を目にすることができます。

ガリシアの庭園にはたくさんのサプライズがあります。サンティアゴ・デ・コンポステーラでは、ロウレンソ・デ・トラソウト邸へ是非足をのばしてみてください。ツバキの花や、キリスト教の象徴を示すセイヨウツゲが生い茂っています。

18世紀の始めにサンティアゴとパドロンの間に建てられたファラメイヨ邸には、126.000平方メートルにも及ぶ田園風の庭園が広がっています。花壇の一部は昔川の畔にあった紙工場の跡地に造られています。



ガリシア再発見



街角に溶け込んだ芸術

ガリシアには、昔からどの街角にも芸術が存在しています。ペトログリフ、ドルメン、カストロなどの古代遺跡は古の文明の一片です。邸宅、穀倉、クルセイロなどのモニュメントなどに潜むミステリーを発見してみてください。

これらの建築には石材が使われています。石工職人たちは伝統技術を駆使し、長い年月をかけ邸宅、道、修道院などを建設してきました。そして、ガリシア全域に点在するロマネスク様式寺院の正面入口の彫刻も手がけてきました。特筆すべきは、コンポステーラ大聖堂の栄光の門です。また、邸宅のファサードや教会内部の紋章や貴族の墓石などを注目してみてください。あなた自身の手で、石の荒さと力強さを感じてください。

美術館や博物館が好きな方には、ここは最適な場所です。ガリシアは博物館の種類も豊富で、農村にあるものもあれば都市部にあるものもあります。何かを学びたいから、ただ芸術を味わいたい。

から、とその楽しみ方も様々です。ガリシアの各町には有名な美術館や博物館があります。航海の歴史が知りたいのなら、フェロールの海事博物館がいいでしょう。そこには船舶や航海道具のレプリカや航海図などがあります。また絵画が好きな方には、ア・コルーニャの県立美術館がお勧めです。20世紀のガリシア人画家たちの作品の数々を目にすることができます。

サンティアゴ・デ・コンポステーラには、ガリシアの伝統や習慣を知ることができるガリシア民俗博物館があります。



Monasterio de Monfero
(モンフェロ修道院)

Centro Galego de Arte Contemporánea.
Santiago de Compostela
ガリシア現代美術館
(サンティアゴ・デ・コンポステーラ)



Fundación Luis Seoane. A Coruña
ルイス・セオアネ財団 (ア・コルーニャ)

ポンテベドラを散歩するなら、歴史地区にある複数の建物からなるポンテベドラ県博物館が楽しめます。ガリシアで最も重要な港のあるピゴには海の博物館があり、ガリシアと海の関係について知ることができます。

先史時代とローマ時代以前の生活についてはカンポ・ラメイロとサン・シブラオ・デ・ラス考古公園がお勧めです。カンポ・ラメイロでは、ペトログリフに描かれた岩絵を見ることができます。サン・シブラオ・デ・ラス考古公園では、カストロ文化について知ることができます。

モンフォルテ・デ・レモスにはモニュメントや芸術品が多々あります。聖母アンティグア博物館はエル・グレコやアンドレア・デル・サルトなどの絵画を保有し、クラリーサス修道院の宗教芸術博物館には17世紀にレモス伯爵が所有していた重要なイタリアコレクションもあります。

また現代アートに興味があれば、ア・コルーニャにあるルイス・セオアネ財団、サンティアゴ・デ・コンポステーラのガリシア現代美術館、ピゴ現代美術館などを訪れてみるのもいいでしょう。企画展では最新の作品がご覧いただけます。

「文化のまち」の主役は建造物です。複数の建物で構成されているこの施設は、ピーター・エイセンマンがデザインし、世界的にも画期的な建築物として有名です。様々な展示展や図書館、資料館のあるガリシア博物館も必見です。



言語と文学

ガリシアではスペイン語の他にガリシア語も話されています。どちらも公用語で、ほとんどのガリシア人はこのどちらも話すことができますから、言葉で問題が生じることはほとんどありません。

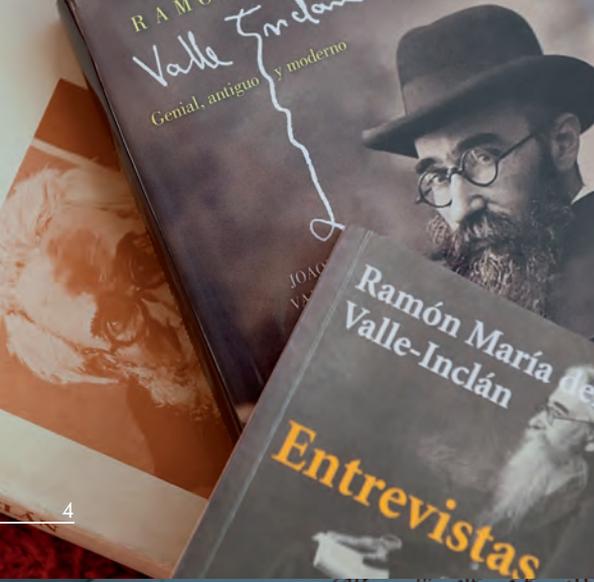
抒情詩の詩人たちに使われ、中世で大きな影響のあったポルトガル語と同様、ガリシア語も語源はロマンス語です。「賢王」と称されるアルフォンソ10世は、ロマンス語で「カンティガス・デ・サンタ・マリア」を書き残しました。

ガリシアを訪れた際には、他の言語への翻訳が難しいガリシア語、例えばリキーニョ、エンシェブレ、ルリーニャ、アロウミニャール、トウシヨなどのことばを耳にするでしょう。それを聞けば、ガリシア語がやさしいリズムと音をもつ言葉である事を実感できるでしょう。

広く文学が親しまれてきたガリシアでは、女性作家の活躍が顕著でした。ロサリア・デ・カストロの詩やエミリア・パルド・バザンの散文から19世紀のガリシア社会について想像してみてください。どちらもスペイン文学の中で有名な女性作家です。

様々な賞を受けているガリシア生まれの作家には「ラ・コルメナ」、「ラ・ファミリア・デ・パスクアル・ドゥアルテ」など有名な作品を残したノーベル文学賞受賞者のカミロ・ホセ・セラがいます。他にもラモン・マリア・デル・バジェ・インクラン、エドゥアルド・ブランコ・アモール、アルバロ・クンケイロ、アルフォンソ・ダニエル・ロドリゲス・カステラオ、ゴンザロ・トレンテ・バジェステル、マヌエル・リバスなどの有名作家たちがいます。

これらの作家の作品はカミロ・ホセ・セラ財団、エミリア・パルド・バザン博物館、ロサリア・デ・カストロ財団、ゴンザロ・トレンテ・バジェステル財団などに残されているので是非、訪れてみてください。



4

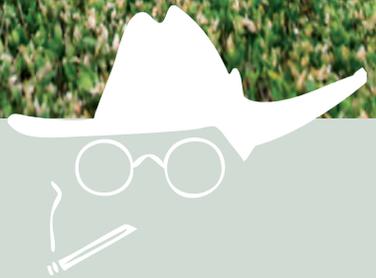


5



6

Castelas





手つかずの自然

ガリシアでは、そこに生息する動物や植物のために大半の土地が保護されています。オオカミが棲息する森を散策したり、自然のビーチがある島まで舟で渡ったりしてみてください。

イギリスの一般新聞ザ・ガーディアンが「世界で一番美しいビーチ」と絶賛するシエス諸島のロダスのビーチは、ガリシア大西洋諸島国立公園にあつて豊かな自然が広がります。サルボラ、コルテガダ、オンス、シエス島で構成されている、動植物の保護エリアです。

フラガス・ド・エウメ。イベリア半島で保存状態の最も良い大西洋の森。原生林の中を散策すれば、エウメ川の絶景が見渡せるカアベイロ修道院へ到着です。

シュレス山脈バイシャ・リミア自然公園。多くの滝、巨石遺跡、温泉、ローマ時代の街道道路が続くこの地を訪れると、まるでファンタジーと現実の世界の狭間にいるようです。

コルベド砂丘。海の前に広がるこの壮大な砂丘。砂丘の上を歩けば、カレガルやビシャンなどの湖を目にすることができます。

アロイア山。ガリシアで一番大きいミーニョ川の谷がつくった自然の展望台。トウイへの途中、壮大なパノラマの景色が広がります。

オ・インベルナデイロ。ほとんど誰も住んでいない、この森の散策には事前の許可が必要となります。手つかずの自然の川や原生林の森が楽しめます。

エンシニャ・ダ・ラストラ山脈。ガリシアでも珍しく、地中海原生のオークや他の植物が見られるのはここだけ。洞窟学者たちが絶賛する地域でもあります。



Playa de Doniños
ドニコヨス・ビーチ



ガリシア、自然の宝庫

国立公園や自然公園以外にも自然保護地区、自然モニュメント、自然価値のある品種保護エリア、生物圏保護区などがあるガリシア。

ルゴ県の北にあるビベイロでは、アブエロ・デ・チャピンを見ることができます。ソウト・ダ・レトルタに育つこの木はスペインで最も高い木のひとつで、その高さは62メートル。ア・コルーニャのアルタブラ海岸のカペラダ山脈にはヨーロッパで最も高い崖があります。霧の霞むこの一帯では野生馬を目にすることや荒い波に切り込む岩崖、そして甦った魂が再び集うと言い伝えが残る聖堂があります。

ポンテベドラ県、カンガス市のビーチは穏やかな楽園です。ポンテベドラとビゴの入り江の間にあるコスタ・ダ・ベラでは、その浜辺の砂の細かさや白さに驚くでしょう。

浜辺から山へ移りましょう。オウレンセ県のバルデオラスには、標高2127メートルのトレビンカの岩山があります。氷が解ける時期になるとヨーロッパで唯一の針葉樹の森を通して激しく水が流れ落ちてきます。

生物圏保護区に指定されている地域はガリシアで6つ。特にオウレンセとルゴの川と山に集中しています。オウレンセのアジャリス地域にはアルノイア川が通り、同じくオウレンセ県にあるシュレスは森に育つ植物品種の多様性で有名です。

ルゴ県にはオス・アンカレスがあり、何世紀にもわたって利用されてきたパヨサと呼ばれる家があります。北にはエオ川、オスコス、テラス・デ・ブロンなどもあります。この地域一帯を潤してくれているのはエオ川です。ガリシアで一番長い川の周り一帯には、テラス・ド・ミーニョがあります。



Praza da leña. Pontevedra
レニャ広場 (ポンテベドラ)



Rúa Policarpo Sanz. Teatro A Fundación
ポリカルポ・サンス通りのピゴ財団劇場 (ピゴ)



Modernismo. Ferrol
モデルコスモ建築 (フェロール)

7つの町

ガリシアには、4つの県に7つの主要な町があります。ポンテベドラ県で一番人口の多いのは30万人が住むピゴです。

フェロール。16世紀からスペイン海軍の港として機能してきました。軍事基地や船舶産業で力を伸ばしていきます。

ア・コルーニャは大西洋に面した町。世界遺産にも登録されているのは、唯一現在でも稼働しているローマ時代の灯台、ヘラクレスの塔です。ビーチを楽しんだ後は、ラ・マリーナ通りを写真におさめてみてはどうでしょうか。

サンティアゴ・デ・コンポステーラ。サンティアゴ巡礼の道歩く何千もの巡礼者たち。彼らの目的地は世界遺産の宝庫です。路地の散策や、振り香炉ポタフメイ口をお楽しみいただけます。

ポンテベドラ。その歴史地区を歩けば、石を削る石職人の仕事を目にするすることができます。広場では温かい町の雰囲気



Praza das Praterías, Santiago de Compostela
プラテリアス広場 (サンティアゴ・デ・コンポステーラ)



Fuente de As Burgas, Ourense
アス・ブルガスの泉 (オウレンセ)



Vista de Lugo desde su catedral
大聖堂から望むルゴの風景

とゆったりとした時の流れを感じることができます。

ビゴの入り江では、貝を養殖するバテアが見られます。その海底には、アメリカから金を運んできたガレオン船が眠っているというのをご存知でしたか？ペドラ市場ではカキを食べたり、シエス諸島まで舟で遊覧したりすることができます。

オウレンセはミーニョ川のすぐ近くにありますが、中でも町のシンボルのローマ橋が有名です。いくつもある温泉でゆっくりお過ごしいただけます。

ルゴ。町は、世界で最も保存状態の良いローマ時代の城壁で囲まれています。もちろんこれは世界遺産にも登録されています。ローマ時代の生活はこの土地に温泉として、そしてまたアルデ・ルクスというお祭りとしても残っています。



歴史地区

ガリシアには田舎町が多く、その景色には多くの集落を目にすることができます。古い歴史のある村は、土地の人々にとって行政的、また商業的な重要な意味を持っています。

ベタンソスは中世の時代、ガリシアの首都だった場所です。「騎士団のまち」と呼ばれていたのには、社会的地位のあった貴族たちが多く住んでいたからです。

ムロス。入り江へと続くこの町の特徴は、漁師が漁網を保存していた石造りの回廊です。パイオナ。この港に1493年、アメリカ大陸の発見を報告するピンタ船が到着しました。攻城戦があったことで建てられた城砦は、現在ではパラドールとして利用されています。

トウイ。この街の大聖堂の防御機能は特徴的です。入り口の扉にあるレリーフも必見。この町は行政と宗教面で戦略的な場所となりました。

アジャリス。なだらかなアルノイア川と交差する村。中世、ガリシア王国の首都だったこの村は、文化的中心地としてその最盛期を迎えます

リバダビアは中世期に栄え、原産地呼称リベイロの中心地です。ブドウ畑とアビア川に囲まれた城が町の中心になっています。

モンドニエド。この町の中心には素晴らしい大聖堂があります。「天使の羽」と呼ばれる、カボチャの繊維でできた餡の詰まったお菓子を食べてください。

ビベイロ。戦略的に重要視されていた町の港。この港を守るために町は城砦で囲まれるようになりました。町へアクセスできる3つの門を見つけてみませんか？壁に囲まれたこの町で、その最盛期の時代を感じてみてください。



ガリシアのフィエスタ

キリスト教と非キリスト教のお祭りが混ざり合うガリシアは、お祭り好きな人にぴったりです。夏にお祭りのない週末はありません。これらお祭りの多くは、国際・国内・ガリシアの重要観光行事に認められています。

お祭りの多くは聖人などを奉る宗教的なものです。近くの村を訪れば、教会の周りを巡るパレードや夜中まで続く音楽を楽しんだりできます。

サント・アンドレ・デ・テイシド教会やノサ・セニョーラ・ダ・バルカ教会にある偶像、泉、石などに宿る不思議な力に祈るお祭りもあります。このようなお祭りの時にはバグパイプとタンバリンの音楽と一緒に食事を楽しみながらロスカと呼ばれる菓子パン、エンパナダ、チーズなどが食べられています。

ガリシアのお祭りに郷土料理は欠かせません。ほとんどの村では様々な料理に利用される自慢の地産作物があり、お祭りの時にはそれらを使った郷土料理を手ごろな価格で食べてみるすることができます。

アルポのランプレア祭り、ア・グアルダのエビ祭り、オ・グロベのシーフード祭り、ノイアのエンパナダ祭り、そしてピラルバの雄鶏祭りなどが有名です。

リバダビアのフェスタ・ダ・イストリア、ポンテベドラのフェイラ・フランカ、バイオナのフェスタ・ダ・アリバダといった、町や村の旧市街地で行われる歴史をテーマにしたお祭りも必見です。その時代に生きた人物の一人になれるような服装で参加しましょう。





野生馬のたてがみ切り

森で育つ野生馬の群れは、昔のガリシアを連想させます。毎年、夏には馬のたてがみと尻尾を切り、寄生虫駆除をする儀式があります。森に棲んでいても馬の所有者はいます。産まれた子馬には、その所有者を示す印がつけられます。

この儀式は、いくつかのガリシアの村で伝統的な仕事として継承されています。これは人間と馬の体と体のぶつかりあい、どんな道具も使わずに馬を操るというものです。人間たちによって、馬たちはこの囲いへと誘導されます。

この伝統はオイア、セデイラ、モンドニエドなどで受け継がれています。スペインで唯一見られるこの慣習が一番色濃く残っているのはポンテベドラのセブセドでしょう。毎年この儀式を始めるのはアロイタドーレスと呼ばれる若者たちで、彼らがこのイベントの本当の主人公です。

エンパナダやガリシア風タコ、ワインといったガリシアの郷土料理をアロイタドーレスと見学者たちが楽しむことでこの行事は終わりを迎えます。バグパイプやタンバリンなどでガリシア地元の曲を演奏するコンサートもあります。ここでしか見られない迫力あるイベントです。必見です。



カーニバル

ガリシアで最も伝統のあるお祭りといえば、ガリシア語でエントロイド、つまりカーニバルです。独裁政権時は禁止されていた非キリスト教で見学者参加型のこのお祭りは、人々によって何世紀の間受け継がれてきました。

村や町のいたるところで、みんなで楽しめるこのお祭り。ただ仮装して、音楽に体を委ねればいいだけです。この時期にはおいしいコシド（煮込み料理）やフィジョア、オレイヤスと呼ばれるお菓子を食べて疲れを癒します。

オウレンセはこの伝統が一番残っている地域です。ここはカーニバルのトライアングルと呼ばれ、シンソ・デ・リミア、ペリン、そしてラサではパンタージャス、シガロン、ペリケイロと呼ばれる仮面をつけ、伝統的な手縫いの服を着た人たちが通りに集まり、見学者たちと一緒に祭りを盛り上げます。オウレンセにあるマンサネダ、ピアナ・ド・ボロ、それにピラリニョ・ド・コンソなどといった村でもまた違ったカーニバルが楽しめます。

ポンテベドラ県のコブレスでも、18世紀の書物に記されているカーニバルのお祭りがあります。ダンスと遊びを主とするお祭りで、貴婦人と紳士の服装を身にまとい、上流階級の人々のように振舞うお祭りです。壮健豪華に装飾された軍服を着る、シエネライス・ダ・ウツヤのお祭りも特徴的です。

他の町でもカーニバルのお祭りは開催されます。ア・コルーニャ、オウレンセ、ポンテベドラでは数日にわたってカーニバルがあり、町は仮装した人たちで賑わいます。また、陽気な音楽も夜明けまで楽しめます。



買い物、ファッション、工芸品

記憶に残るのは写真だけではありません。ガリシアで購入した工芸品や斬新な商品をお土産にはどうでしょうか。

ガリシアのハンドメイド製品の質の良さが、この地域の商品を人気のあるものにしていきます。カマリーニャスのレース編み、サルガデロスの陶器、黒玉、銀細工などの親から子へと伝えられる伝統技術により、たった一つしかない製品が作られています。旧市街の通りや広場はかつてのこれらの製品の同業者組合に因んだ名前が付けられています。

ガリシア工芸品に認証されている黒玉のイヤリングなど、世界にたった一つしかない手作りの作品をプロの工芸家たちが作り、次世代へと受け継いできています。木材や革でできたサンダル、トルクと呼ばれる銀でできたケルトデザインの装飾品、銀細工、ツゲとベルベットでできたバグパイプ、サンコスメイ口の麦藁帽子などが作られています。

グルメを楽しみたいのなら、かわいいボトルに入ったお酒はどうでしょうか。ガリシアで一番有名なのは、ケイマーダをする時に使うアグアルディエンテと呼ばれる蒸留酒。伝統的なコーヒーリキュールも人気です。5つの原産地呼称があるチーズを料理にもよく合います。

ファッションにおいてはキナ・フェルナンデス、アドルフォ・ドミンゲス、ロベルト・ペリノなどを輩出したガリシアは、繊維業界でも世界的に注目をあびている地域です。世界的に知られるインディテックス本社があるのもここ。店では最新の流行を取り入れたファッションが楽しめます。また、町のブティックもオリジナリティにあふれたファッションを販売しています。ショッピングモールもいくつかありますが、ア・コルーニャにはヨーロッパで三番目に大きいマリネダ・シティがあります。



フェスティバルとナイトライフ

夜の街には、さまざまな楽しみ方があります。バーが立ち並ぶワインエリアへ足を運んでみてください。店の外にまで漏れる人々の賑やかさの中で、ガリシアビールやワインを楽しみながらタパスを食べてみてはどうでしょうか。

また落ち着いたレストランで、国際的に定評のある伝統料理を食べてガリシア食材を楽しんでみることもできます。バーやパブ、ディスコは朝方まで開いているので体力が尽きるまで遊ぶことができます。

6月末のサン・フアンの日、ア・コルーニャのビーチはキャンプファイヤーでいっぱいになります。夏はここから始まります。パイオナ、サンシェンショ、ピラガルシア・デ・アロウサ、リベイラ、ムガルドスなどの沿岸地域は過ごしやすい気候の時期、野外コンサートや最高のグルメを求める観光客で一杯になります。

サンティアゴで7月24日の夜を過ごし、使徒ヤコブを称える花火を見てサンティアゴの日を体感してみてください。

またガリシアには、レズレクション・フェスというメタルとハードコア・ミュージック関連のイベントもあります。ロックやインディーズグループの音楽をポルト・アメリカ・リアス・バイシャスで楽しむことができます。参加グループが公開されない、サン・シモン島で開催されるシン・サル・ソン・エストレイヤ・ガリシアやフォークミュージックを楽しむフェスティバル・デ・オルティゲイラなどもあります。地元の夏の音楽祭は、各村や町のお祭りの時に楽しめます。



家族で楽しむ観光

ガリシアは家族旅行にも最適の場所です。小さな子どもから年配の方まで、この最適な気候で楽しめる活動は様々。また安全面や混み具合を考えると最適の観光スポットといえます。

アウトドアイベントもたくさん開催されています。カヌー、カヤック、アーチェリー、ロッククライミング、サーフィンなど、様々なアウトドアスポーツも楽しめます。入り江の水流はなだらかなので安心してマリンスポーツも楽しめ、夏に開催されるヨットの講習会などもあります。

家族で楽しめる博物館や美術館もあります。ア・コルーニャには4つの科学博物館があり、アザラシの餌やりを見られたり、プラネタリウムで星を探したり、飛行機のキャビンに入ったり、DNAがどのように働くのかを学んだりできます。アジャリスにあるおもちゃ博物館では昔の子どもたちの遊びを見たり、モンフォルテ・デ・レモスの鉄道博物館では鉄道の歴史を学んだりすることができます。

動物が好きであればマルセイユ自然鳥類公園ではバイソン、シマウマ、エミュー、リヤマ、トナカイ、キツネ、フラミンゴ、ハゲワシ、ハト、キジ、ライチョウなどと触れ合うことができます。牧場や農場では自然と農業について体験することができます。シジェダのフェルベンサベントウラ、シャンセダのカサ・グランデ、カサ・アルバレツジャでは牛の乳搾りや羊やヤギの小屋を見たり、ポニーの毛並みを整えたり、野菜園にある野菜や豆を収穫したり、子牛にミルクをやったり、また手作りのパンを焼いたりすることができます。



ガリシアのアウトドア

自然を楽しみたい人にガリシアは最適な場所です。山、海などが常にその景色に詰まっています。そして一年を通して色々な活動を楽しむことができる気候の土地です。

ガリシアにある1.650キロの沿岸は、マリンスポーツを楽しむには最適です。ガリシアには20の港があります。船で海を遊覧する際には地上とのアクセスが良く、停泊できる施設も約50カ所あります。

入り江の水流は穏やかなので一年を通じて航海が楽しめます。海からガリシアの豊かな海の文化やガリシア大西洋諸島国立公園などを体感してください。

ここはまた、大西洋の波に挑むサーファーやその他のマリンスポーツファンが集う場所でもあります。サーフィン初心者はもちろん、経験を積んだサーファーにも人気のスポットです。

ガリシアは1,000の入り江がある場所とも呼ばれます。その海やダムでは、信頼できる会社が企画するアクティビティを楽しめます。

景色はその顔を様々に変化させますが、適切に表示された標識もあるのでハイキングも安全かつ安心して楽しめます。

自転車で町や山を体感したければ、BTTセンターを訪れてみてください。サイクリングをしながら自然を感じることができます。

その景色と気候。アウトドアが好きな人にとって、ガリシアが最適な場所であることは間違いありません。

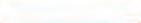
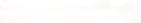


ESCALA 1:760.000

0 10 20 30 Km

Proyección U.T.M. Fuso 29



-  高速道路
-  準高速道路
-  国道
-  自治州道
-  その他の自治州道
-  県道

-  AVE 鉄道
-  広軌鉄道
-  狭軌鉄道

-  国境
-  州境
-  県境

 **LUGO** 県都
州都

 **Vigo** 自治体 (人口6万人以下)

 **Baleira**
O Cádavo その他の自治体
市役所所在地

 空港

 国立公園

 自然公園



ガリシアを目と耳で実感し、観光スポットを楽しむことができる

「LOS GEODESTINOS」。

主要スポット14箇所の歴史とその特徴を ありのままに知ることができます。



ガリシア自治州政府観光局

Turismo de Galicia

Carretera Santiago - Noia, km. 3 (A Barcia)
15897 Santiago de Compostela - A Coruña (España)
Tel. +34 981 542 500 | Fax: +34 881 995 323
012@xunta.gal | www.turismo.gal



www.turismo.gal

Tel. +34 981 900 643
e-mail: 012@xunta.es

galici@



XUNTA
DE GALICIA